# 教区新報 HOYOG

発行所
浄土真宗本願寺派　兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341−5949(代)
［編集］教区基推委広報部

2010. 7　164号


## 教区仏婦連盟大会開催
### ～姫路文化センターに千三百人～

六月二十八日、姫路市文化センターを会場に、千三百名近くの参加を頂き『平成二十二年度兵庫教区仏教婦人会連盟大会』が開催された。

大会は、教区連盟旗の入場、宗祖讃仰作法（音楽法要）のお勤めの後、教務所長挨拶があり、続いて井上悦子委員長が「昨年度の教区仏婦連盟結成五〇周年記念大会の活動報告では、様々な課題の報告がなされました。今年度は五十一年目ということで、課題の克服について、どの様に仏婦活動を活性化させていけば良いかと、皆様と共に考えていきたいです」と挨拶した。

その後、来賓を代表して教区寺族婦人会連盟杉本照美委員長（阪神東組最光寺）の祝辞に続いて、今年度新たに連盟登録された単位会、西楽寺仏教婦人会・西信寺仏教婦人会（ともに掛龍東組）の代表者へ登録証の伝達があった。

大ホールに舞う散華

午前中の総会では、事業報告・決算、事業計画・予算報告がなされた。

昼食を挟み、午後からは記念講演と、アトラクションが行われた。

記念講演では、貴島信行師（仏婦総連盟講師）にお話を頂いた。

貴島師は、豊かさということに触れて、「お念仏の人生とは、今この時この場所この私に届けられている南無阿弥陀仏のおはたらき、有限の時間の中に届きながら、私達を無量のいのち、無量の光の世界へと抱きとって下さる大きなおはたらきの中にある。阿弥陀様の智慧と慈悲の中に仏教婦人として、人々の絆、心の繋がりを大切にしながら豊かなお寺、豊かな婦人会になる様お互い精進させて頂きたい。」と話された。

アトラクションでは、安藤圣一氏（人形遣い／「新☆三銃士」主役：ダルタニアン操演等／新潟教区福勝寺衆徒）の一人人形説き「弁円のなみだ」が上演された。山伏弁円の回心のストーリーを、一人で声色を変え人形を替えと、熟練の技に観客は魅了された。

閉会式では、教区仏婦連盟細田三津子副委員長が「現生正定聚のみ教えをうけて、いま、私たちは阿弥陀様のお心に遇えたよろこび、お念仏を申すよろこびを分かち合い、全てのいのちが輝く世の中を目指して日々を過ごさせて頂きましょう。」と挨拶し、大会は閉会した。

なお、今大会のダーナ献金は、皆様より三十万四千四百三円を頂きました。

カナダで開教使をなさっていた方が、手垢で真っ黒になった御聖教を持っておられた◆聞けば、分からない事は全部自分で調べる他なく、御聖教だけが頼りであったとのこと。齧り付く様に必死で御聖教を読み破られた御苦労が偲ばれた◆物のない時代に大変御苦労なさって、全ての物を子供や孫に与えて御往生なさった御同行がおられた。その御同行が、「自分が往生したら、これだけは棺に入れて欲しい。」と仰って取り出されたのは、御主人が亡くなってから、毎日御内仏で勤行なさった赤い御経本であった。手垢で真っ黒になったその御経本は、その方の人生の尊さを偲ばせた◆御聖教は、埃を被っていたり、大事に箱に仕舞ったままにして置くものではない。手垢の付いた御聖教は、求道は聞法、聞法は求道の真宗の信仰の在り方そのものを表現している。

播磨中組 福恵寺 西田智教



## 教区だより　7月・8月

**7月**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16（金） | 常備会 | | 14：00 |
| 17（土） | 勤式練習所講習 | 神戸別院 | 13：00 |
| 18（日） | 仏教壮年丹波・但馬ブロック別研修会<br>仏教壮年阪神・神戸ブロック別研修会 | 神戸別院 | 10：30 |
| 20（火） | 糾弾学習会 | ホール | 13：30 |
| 21（水） | 丹波・但馬ブロック同朋講座事前学習会 | みふね会館 | 13：00 |
| | 社会対応部会 | 2F会議室 | 14：00 |
| 22（木） | 総代会一泊研修会（23日まで） | 神戸別院 | 13：30 |
| 23（金） | 第147回臨時教区会 | | 10：30 |
| | 組画編成等常任委員会 | | 14：00 |
| 24（土） | 近畿ブロック仏青連盟　研修会 | 神戸別院 | 12：00 |
| | 勤式練習所講習 | 神戸別院 | 13：00 |
| 25（日） | 仏教壮年姫路・西播ブロック別研修会 | 南光文化センター | |
| 26（月） | 阪神・神戸ブロック同朋講座事前学習会 | 神戸別院 | 13：00 |
| | 第47回兵庫教区少年連盟サマースクール（27日まで） | 神戸別院 | 1泊2日 |
| 27（火） | 西播・岡山ブロック同朋講座事前学習会 | 揖龍西組徳行寺 | 13：00 |
| 28（水） | 近同推　総会 | 本山 | |
| 29（木） | 姫路ブロック同朋講座事前学習会 | 爛漫市民センター | 13：00 |
| 30（金） | 布教団　第1回各種法座出講予定者事前学習会 | 神戸別院 | 10：30 |
| 31（土） | 勤式練習所講習 | 神戸別院 | 13：00 |

**8月**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1（日） | 暁天講座（3日まで） | 神戸別院 | 7：00 |
| | 講師（1日）：鷲尾衛鳳師（神戸湊組寶球寺） | | |
| | 講師（2日）：津守秀俊師（神戸東組照光寺） | | |
| | 講師（3日）：藤栄亮匡師（淡路組宣徳寺） | | |
| 6（金） | 全国真宗青年の集い　近畿大会（7日まで） | 神戸別院・ポートピアホテル | |
| 7（土） | 第一土曜仏教講座 | 神戸別院 | 13：30 |
| | 講師：小谷信千代師（大谷大学名誉教授） | | |
| 15（日） | 盂蘭盆会 | 神戸別院 | 13：00 |
| | 講師：松村彰道（神戸別院輪番） | | |
| 21（土） | 勤式練習所講習 | 神戸別院 | 13：00 |
| 22（日） | 兵庫教区親鸞聖人750回大遠忌法要子どもの集い（23日まで） | 神戸別院 | 終日 |
| 24（火） | 教区会　議員研修会（25日まで） | 新潟 | |
| 28（土） | 東西真宗保育研修会 | 慈愛保育園 | 8：30 |

## 親鸞聖人750回大遠忌法要 子どもの集い　開催のご案内

影絵劇（かかし座）

今年度「兵庫教区・本願寺神戸別院　親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」の修行にあたり、これまで総代にはじまり寺族婦人・仏教婦人・仏教壮年・門徒推進員等とお待ち受け法要をお勤めし、大遠忌を向える意義を確かめ合いました。

これを受け今般、子ども達を対象とした「兵庫教区親鸞聖人七五〇回大遠忌法要　子どもの集い」を次の通り開催致します。皆様のご参加をお待ちしております。

◆期日／二〇一〇年八月二十二日（日）・二十三日（月）の二日間◆会場／本願寺神戸別院◆対象／教区内の子ども・日校・子ども会・スカウトクラブ・保育園児・幼稚園児など※親子での参加も歓迎します◆参加費／楽しいイベントも含め、**すべて無料**◆詳細・申込方法につきましては兵庫教区教務所までご連絡下さい。TEL〇七八―三四一―五九四九

**内容紹介（一部）**

【二十二日】◆親鸞聖人七五〇回大遠忌法要（らいはいのうた）◆ふれあい動物園◆劇団かかし座（影絵と影絵劇の総合劇団）「影絵劇」「手影絵ワークショップ」

【二十三日】◆親鸞聖人七五〇回大遠忌法要（幼児のおつとめ）◆ふれあい動物園◆うたのおにいさんといっしょ／坂田おさむおにいさん（NHK「おかあさんといっしょ」七代目歌のお兄さん）

今回も一部二十円（送料は実費）にて販売いたしております。また、百部以上のご注文の場合に限り、寺号を無料で印刷致します。お電話・FAXにてご注文下さい。

※寺号印刷ご希望の場合は一週間程度お時間を頂いております。ご希望の場合はお早めにお申し込み下さい。

## お盆のリーフレット受付中

お盆号

年に三回発行しております、「法」シリーズ。今回のお盆号は、波多正宣師（阪神南組正光寺）にご執筆いただきました。

## 敬弔

左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します。

**竹内文昭**（網干組教蓮寺前住職）平成二十二年五月二十八日八十一歳

**杉本敦子**（播磨中組安楽寺坊守）平成二十二年六月一日六十九歳

**小原俊一**（網干組専念寺住職）平成二十二年六月十九日八十六歳

**岡本淳子**（多紀組福正寺前住職）平成二十二年六月十五日九十四歳

**菅義仙**（阪神西組乗誓寺前住職）平成二十二年六月二十三日八十二歳

【敬称略】

七月六日現在

# 正副組長・組相談員等研修会
## ～青木氏「おくりびと」から～

六月九日の午後より、東播ブロック担当のもと本願寺神戸別院を会場として「組長・副組長・組相談員等合同研修会」が開催された。

この合同研修会は、一九八三（昭和五十八）年に岡山ブロック担当で第一回が開催されてから今回が二十七回目となる。

協議会では宗報五月号に掲載された人権情報誌サットバ vol 26「兵庫教区　同朋講座における差別発言事件」の対応の概要と宗務情報コーナーで掲載された「兵庫教区内より発信された連続差別投書事件」について説明があり、教区としてこの二つの事件を重く受け止め、今後同朋運動推進にどのように取り組んでいくのかについて活発に意見が出された。その他今後の教区事業についても話し合われた。

協議会での質疑応答

今回の講演講師は、葬儀現場の体験を『納棺夫日記』として著した作家の青木新門氏であった。

青木氏は、同著を原案とした映画「おくりびと」がアカデミー賞を受賞し、再び注目された。

今回は、テーマを『後生の一大事』～映画「おくりびと」に寄せて～と題して、主演俳優の本木雅弘氏と交信することになったきっかけから話し始められた。

ある時、本木雅弘氏からインドを旅した写真集に『納棺夫日記』の一文を引用させて欲しいと言われ、しばらくして『HILL　HEAVEN』と題された本が届いた。インド・ベナレスのガンジス川の岸辺で送り火を手にした上半身裸の彼の写真に〈何も蛆の掃除までしなくてもいいのだが、ここで葬式を出すことになるかもしれないと、蛆を掃き集めていた。蛆を掃き集めているうちに、一匹一匹の蛆たちが鮮明に見えてきた。そして蛆たちが捕まるまいと必死に逃げているのに気づいた。柱によじ登っているのまでいる。蛆も命なのだ。そう思うと蛆たちが光って見えた〉という文が引用されていた。当時二十代であった本木氏が「蛆の光」に共感していることに大変な驚きがあり、その時の感動は忘れられない。

この「蛆の光」こそが『納棺夫日記』のテーマであった。生と死のつながりを考え、納棺の現場で「死んだらどこへ往くのだろうか」と考え、死に往く人から死の相を教わり、死後の世界をイメージするようになった。それこそが蛆も光って見える世界であり、仏教の説く浄土だと思った。

また、生と死のつながりを、死んだらどこへ往くのだろうかを考え、死を見つめること、それが今回テーマ『後生の一大事』に気づくことである。

青木新門氏

秋の紅葉が美しいのは気候の環境変化に対応しているからであって、春の様子そのままを保とうとすると木そのものが枯れてしまう。同じく、冬の木立が美しいのは葉っぱを全て失くしてしまい、それでも次の世代へ生命を繋ごうとしているから凛々しく美しいのである。春のままで行こうとすることは、『後生の一大事』が全く欠落しているのではないだろうか。

そのような死の相へであうことへのこだわりが『納棺夫日記』に書いたつもりであったが、映画「おくりびと」では異なっており著作権を放棄してでも一線を画した部分であった。

と、『納棺夫日記』から映画「おくりびと」が誕生するまでの紆余曲折を、時には真剣に、そして時には面白く話された。

その後、八歳の頃、満州で終戦を迎えた自身が、母とはぐれ死んだ妹の亡骸を難民収容所の仮の火葬場に置きに行ったこと、小説家を目指していたが、生活苦により働き始めた職場で納棺を手伝ったことから納棺専従職員になったことを話された。

さらに納棺の仕事を始めた頃は、社会の目は冷たく、叔父からは「親族の恥」と罵倒されたことなど、死の相へであうことになった自らの人生、さらに連れ合いにも辞めて欲しいと言われたほどの納棺夫の仕事をそれでも続けようと思えた出遭い、「親族の恥」と罵倒してきた叔父の死、そんな日々を書き綴ったものが後の「納棺夫日記」となったことなど、青木氏自身が『後生の一大事』を深く考えるようになった経験を語られた。

最後に、現場で学び、親鸞聖人の教えに出遭い、死ぬ間際の叔父にありがとうと言われたことで書かれた詩

「人は必ず死ぬからいのちのバトンタッチがあるのです。死に臨んで先往く人が『ありがとう』と言えば残る人が『ありがとう』と応えるそんな一瞬のバトンタッチがあるのです。死から目をそむけている人は見そこなうかもしれないがそんないのちのバトンタッチがあるのです。」

を読まれ、この詩の様に私は死ぬ時「ありがとう」と言って死ねるようになりたい。と結ばれた。



# 僧侶研修
## 『正定聚』と『必定』

講議される葛野氏

七月一日、平成二十二年度第一回目の『兵庫教区講師団・僧侶研修会』が、神戸別院を会場に開催された。

午前中は「講師団研修会」、午後は「僧侶研修会」と二部構成の研修会であり、ご講師には葛野洋明師（本願寺教学伝道センター常任研究員・龍谷大学院特任教授／大阪教区託明寺）をお迎えして、教区教学テーマ『現生正定聚』についてご講義を頂いた。

午後からの僧侶研修会では、昨年、教学伝道センターより発刊された冊子『拝読　浄土真宗のみ教え』より、「浄土真宗の救いのよろこび」「親鸞聖人のことば」の文を引用されて一つ一つ丁寧にご自身の味わいを交えて解説された。

お話の中で先生は、正信偈の「憶念弥陀仏本願自然即時入必定」のご文を引かれ、「ここが現生正定聚ということを、的確におっしゃっておられる所であります。

今日お話に出ております「正定聚」と「必定」とは同じことでございます。これは、竜樹菩薩が「必定」という言葉でおっしゃって下さったものを、親鸞聖人が受けて書いておられることで、内容は一緒でございます。

憶念弥陀仏本願、弥陀仏の本願を憶念すれば、憶念するとは信心と思って頂いたら結構でしょう。阿弥陀仏の本願を信じ、ききひらき、おまかせさせてもらうならば、自然に（私が何かしたからではなく）自然の道理で、必ず救うという阿弥陀仏の本願が私に届いて、私はそれをそのまま受け取っている訳ですから、必ず救うというはたらきは、当然、同時に必ず救われる私にして下さっている訳です。

私が自分で必定に入ったわけではなく、信心の利益として必定に入るんだと、こうおっしゃった訳であります。

この「必」という字、これが私は親鸞聖人にとりましても、あるいは法然上人にとりましても随分大切なキーワードだっただろうという風に着目しております。

なぜかといいますと・・・阿弥陀様、お念仏ということは素晴らしいことだと、随分昔から言われてきました。

しかし、お念仏は素晴らしいと言われても、もし「必ず」という言葉が無かったら安心できない。

迷いの中にあってそれを迷いと知っても、嫌うことなくそれを貪っているような生き方をしている。そんな私が、お念仏、阿弥陀様は素晴らしいと言われても、この「必ず」という言葉が無ければ、私の安心にならない。

「必ず」と言われたときに、それは「他の人みんなを救う」という話から「この私を救う」という話に変わってくるわけであります。

「必定」と、「必ず」という言葉が入っていることによって、「阿弥陀様はあらゆるものを救うといって、お念仏よろこぶものはお浄土往生間違いない身になったんだよ」という「ああそんな素晴らしい教えがあるんですか」と、自分一人カヤの外から聞いている話から、「必定」と「必ず」といった時には「お前のことだよ」と「主体的に受け取れる」ことが有るんではないかと思い、この言葉を私は大切にさせていただきたいなと思っております」などと話された。

講義の後には質疑応答もあり、聴講者の体験をもとに味わわれたこと、想いを交えながらの質疑と、葛野氏の真摯な受け答えに、参加者は深く領いておられた。

# 総局巡回公聴会
## ―厳しい意見も―

六月二十二日の午後一時半より、神戸別院本堂にて総局巡回の公聴会が開催された。

本山からは、橘正信総長・西脇修見総務、また中尾史峰総局公室長、事務局より西岡孝了企画推進部長・宗本昌延法制部長・宇野哲哉基幹運動推進中央相談員が出向された。

今回、公聴会が開かれたのは、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要及び親鸞聖人七五〇回大遠忌宗門長期振興計画の進捗状況の報告、また基本法規（宗法・宗規・本願寺寺法）整備事業に関し、宗門基本法規制定調査会より提出の答申書をもとにした意見聴取等を行うためのものであった。

話される橘総長（中央）

まず、橘正信総長から挨拶として、本山にて来年度にお迎えする親鸞聖人七五〇回大遠忌法要への団体参拝、また一般寺院・組・教区にて勤修される法要行事への協賛、大遠忌懇志進納に対するお礼と基本法規改正による将来展望が述べられ、西脇修見総務より巡回の趣旨説明と基本法規改正について紙面等で宗本分離といった表現のみが先行しており本質が誤解されている可能性があることへの補足説明がされた。

協議会では、西岡孝了企画推進部長より宗門長期振興計画の現況と展望の報告、宗本昌延法制部長より基本法規改正に関する説明が行われた後、公聴会に参加された方々より厳しい意見・質問が出され、予定の時間を越える話し合いが行われ、有意義なものとなった。